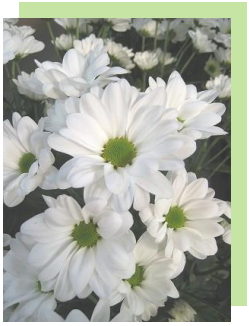
スプレーマムについて

キクには、1 本の茎に花が一つだけ咲く輪ギクと、1 本に複数花が咲くコギクとスプレーマム（スプレーギク）があります。コギクは長短が入り交じった自然の状態で分岐しますが、スプレーマムは人工的に分岐させているためバランスがよく、色や姿が洋風なものも多いという特徴があります。

スプレーマム

学名　*Chrysanthemum*
分類　キク科　キク属
原産　東アジア

東アジア原産のキクは、イギリスを始めとするヨーロッパへ渡り、19 世紀後半に栽培が盛んになりました。その後アメリカへと伝わり、品種改良が進みました。そして 1974 年に、オランダとアメリカから、スプレーマムが日本へ逆輸入され、本格的な栽培が始まりました。



スプレーマム編　ポイント

●品種や栽培方法を組み合わせることで周年出荷が可能。

●圃場では白サビ病やアザミウマ、出荷後は葉の黄化に注意！

●日持ちのポイントは低温での保管と、適切な水揚げ&後処理。

スプレーマムの栽培

ポイント①　秋ギクと夏ギク

秋ギク（ 自然開花期　10～11 月）
日照が短くなると花芽をつくり、
花を咲かせる短日植物。
【品種　セイ　エルザ、レミダス　など】

夏ギク（自然開花期　4～6 月）
日長は関係なく温度で開花する性質。
中には日長が関係する短日性のものもあり、
それらの品種を**夏秋ギク（7～9 月開花）**と呼ぶ。
【品種　セイ　パレット、オルカ　など】

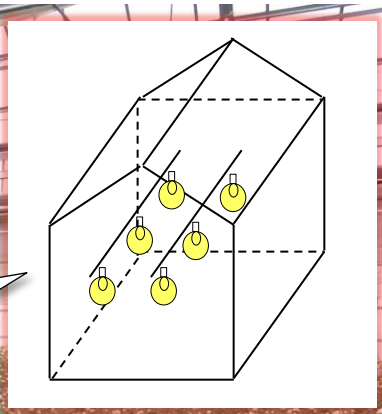
ポイント②　電照とシェード

日長を感じて花を咲かせる性質を利用した 2 つの栽培方法があります。

◆電照栽培◆

花芽ができる前に夜間に電灯照明を使用することで（長日処理）、昼間の時間を長く感じさせ、開花を遅らせる方法

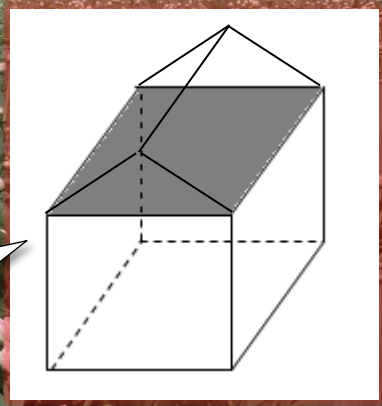
秋ギクでは 22 時頃から 3～4 時間、夏秋ギクでは 5 時間ほど照明



◆シェード栽培◆

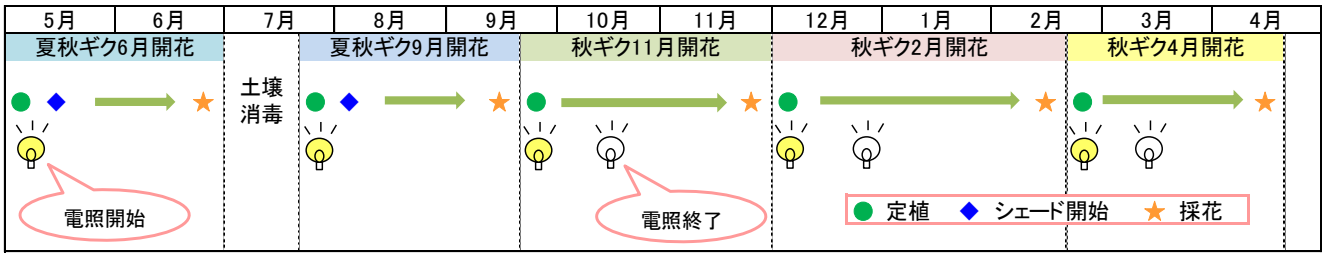
光を透過しないフィルムで朝夕遮光して、明るい時間を短くすることで（短日処理）、開花を早くする方法

日長時間は 12 時間ほどに調整し、夜間は施設内の気温を下げるため、できるだけシェードを開放します



秋ギク・夏秋ギクの組み合わせと、電照・シェード等を用いた作型を組み合わせることで、周年栽培が可能となります！！

✿スプレーマム周年栽培の一例✿



中心の花が咲き、その周囲 2～3 輪が 2～3 分咲になったら収穫です！

●とくに注意が必要な病害虫

＜白さび病＞

病原菌　*Puccinia horiana*によって、葉に白色の病斑が出ます。13～25℃、湿度 90%以上での発生が多く、一度発病すると抑止するのが難しいため、定期的な薬剤散布が必要です。

＜アザミウマ類＞

侵入害虫のミナミキイロアザミウマなどに吸汁されることで品質が低下します。キクえそ病（葉や茎にえそ斑が生じるウイルス病）を媒介する場合もあるため、メッシュの網で覆うなどして侵入を防ぎます。

●産地から運ばれてきたスプレーマム。注意したいのは・・・

温度です！！

高温下では、エチレンの感受性が高くなる場合があり、葉の黄化などが進行しやすくなります。

実際に気温の高い 7～9 月では、葉の黄化が多い傾向となっています。
高温での保管は避け、低温で管理するようにしましょう！

スプレーマムの主な産地は

愛知県、栃木県、群馬県、静岡県　などです！！

日持ちのポイント

●保管方法

キクは呼吸量の多い植物です。そのため呼吸熱を発しやすく、箱のまま冷蔵庫で保管すると温度が上昇してしまう場合があります！呼吸量を減らすためには、水揚げ後に冷蔵庫で保管しましょう。

●水揚げ方法

一般的に乾式での輸送が多いスプレーマム。輸送後の水揚げは、葉の状態をみて方法を変えましょう！！

葉にハリがある場合　⇒　手で折るだけで十分水が揚がります。

手で折ると折口が細かく裂けることで断面積が大きくなり、水をよく吸います。

葉が萎れている場合　⇒　下葉を取り除いた後、38℃で湯揚げを行います。

38℃以上では茎に障害が発生してしまうため注意して下さい。

●後処理

一般的に日持ちの良いキクですが、糖質と抗菌剤を用いた後処理剤によって、日持ちを更に伸ばすことができ、固いつぼみの開花も促進することができます。ただし、**糖が多いと葉の黄化が生じる場合があるため、花店用などの低糖タイプがオススメ**です。

品種について

＊シングル（一重）咲き＊

レミダス

＊アネモネ（丁字）咲き＊

モナリザ

＊スパイダー（管）咲き＊

イエローベスビオ

＊デコラティブ（八重）咲き＊

サバ

＊ポンポン咲き＊

ロリポップ

花型や花色が豊富で、日持ちも良いため、
フラワーアレンジから家庭での観賞用など
様々な場面で活躍するスプレーマム。
和風でも洋風でも、お好みのテイストで
楽しんで下さいね！！

参考文献

宇田明　桐生進　著　「花屋さんが知っておきたい花の小事典」

今井英雄　他編集　「花の園芸事典」

市村一雄　著　「切り花の鮮度・品質保持　基礎と実践」

柴田道夫　編著　「花の品種改良の日本史」

株）大田花き

品質カイゼン室